



No. L-01-A

データマイニングによる顧客の商品選定プロセス分析技術の開発

野田 哲夫(法文学部)

本研究に関連する論文

1) 島根大学法文学部紀要・社会システム論集 2005年, "小規模店舗売上予測システムの統計分析に見られる小規模店舗の出店と存続の課題"

【概要】

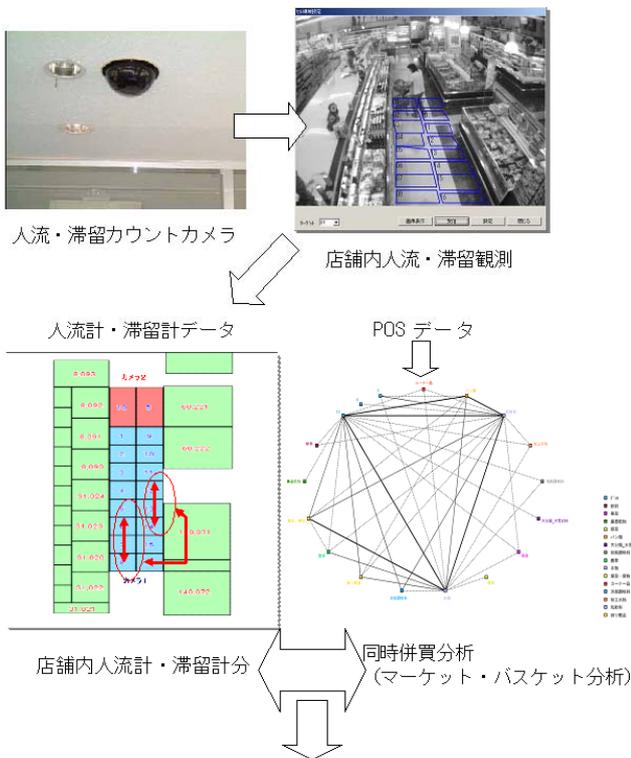
小売店, 服飾店等の小規模店舗にとって, 商圈, 立地, 人流, 店舗内設計など, 様々な要因が売上計画に影響すると思われるが, これらのデータは有効に活用されているとは言い難く, 系統的に収集・分析して, ビジネスに有用な情報に変える分析技術の開発が求められている。本研究は, 動線追跡のシステムから得られる店舗来店者の人流計・滞留計データと, POSデータとの組み合わせから, 顧客の商品選定プロセス分析を行い, 経験や勘に頼らない経営判断情報の提供を目指す。

商品選定プロセス技術の特性

本研究では, 顧客の姿や商品の販売特性を踏まえた分析結果から客観的に結論を導き出すため, 人流計・滞留計データとPOSデータと組みあわせた分析を行う。人流計・滞留計データとPOSデータと組みあわせた分析 (ISM分析) は前例がなく, より精度が高いシステム開発を可能にした。

既に, 本研究では, 人流計・滞留計データと, POSデータそれぞれのマーケット・バスケット分析を行っており, POSデータの数値データ (特に滞留の位置情報と関連する商品の売上げデータ) と各データとの相関, 多項近似曲線の関数式を導出することが可能であることを明らかにしている。

今後は, 「来店者カウント」, 「滞留者密度カウント」, 「男女判別カウント」などの動線追跡システムを店舗に実験導入する実証実験によってさらなる精緻化を行い, コンサルティングシステムとしてのパッケージ化を目指している。



ISM(In-Store Merchandising)分析による店舗コンサルティング

【応用例】

- ・店舗内設計, 商品配列等, 店舗開発への利用
- ・新規出店計画や売上予測計画への利用
- ・中心市街地の活性化等, 都市計画への応用

【研究シーズに関するお問い合わせ先】

島根大学 地域未来協創本部 産学連携部門

〒690-0816 島根県松江市北陵町2番地

電話: 0852-60-2290 FAX: 0852-60-2395 電子メール: crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp